

北才角城跡

全域地図 E-6



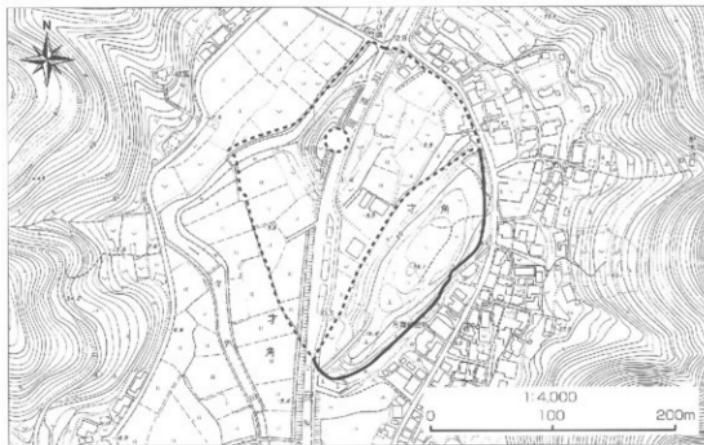
所在地 才角字ハンヤマモリ

現 状 畑、山林

郭 二ノ段の一部と堀の一部が残存する。

特 徴 北西の方向に西ノ路城跡、南西の方向に才角城跡がある。

国道321号線開通により一部残存する。



才角城跡

全域地図 E-6



所在地 才角字城ノハナ

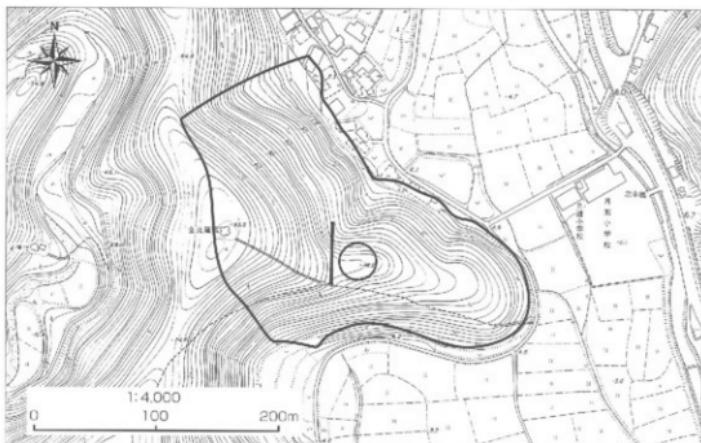
現 状 山林

郭 標高約40mの尾根先端部に東西に約70m、南北に30mの詰
と二ノ段が残存する。

堀 西側に一条の空堀が残存する。

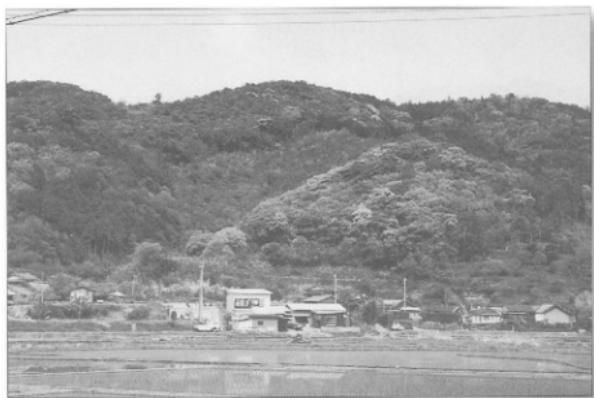
土 壁 詰の北側と南側に残存する。

特 徴 当城跡の一部は地区の公園となり、桜を植樹し、才角地区
を一望できる。



西ノ路城跡

全域地図 E-6



所在地 才角字西ノ路

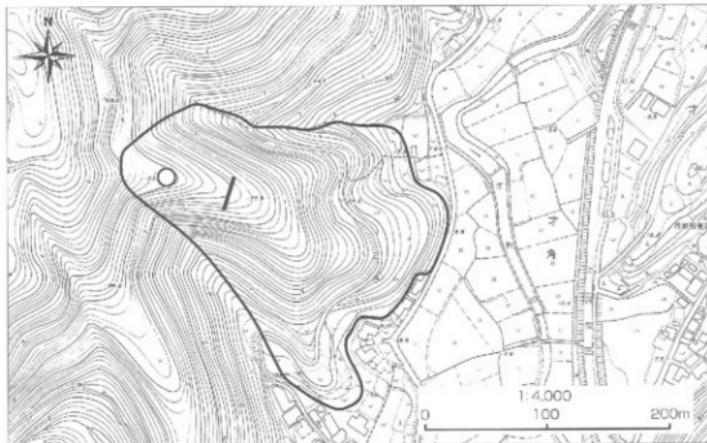
現 状 山林

郭 標高約90mの位置に東西約25m、南北約20mの詰が残存する。

堀 詰の東側約40m下方に一条残存する。

土 堪 北、東南に石垣が残存する。

特 徴 才角地区が一望できる。



姫ノ井城跡

全域地図 D - 5



所在地 姫ノ井字古御堂

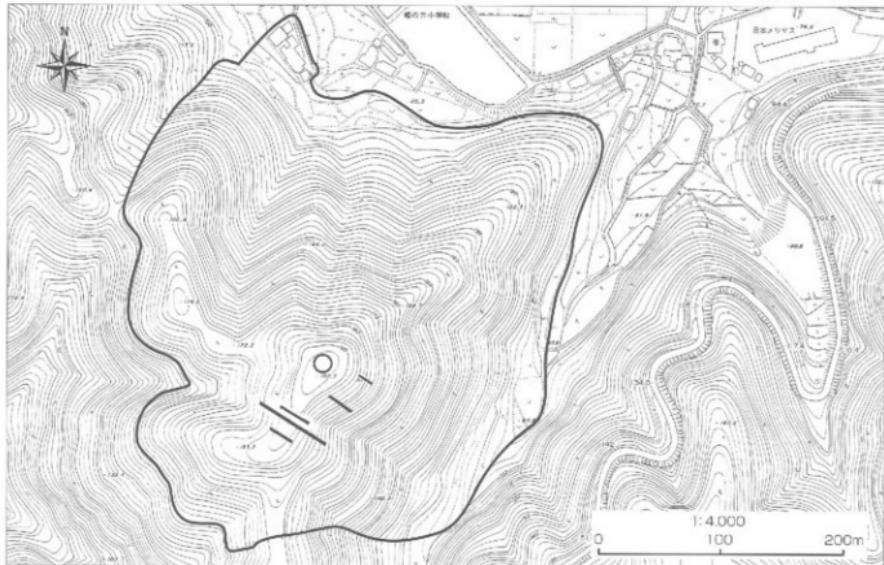
現 状 山林

郭 標高約190mの山頂に東北から南西に約75m、東南から北西に約50mの詰と二ノ段、三ノ段が残存する。

堀 東南に豎堀二条、南に横堀三条が残存する。

土 壁 二ノ段の東側に石垣が残存する。

特 徴 大月町の城跡の中では詰が高い位置にあり北東の方向には愛宕城跡がある。



愛宕城跡

全域地図 D・4



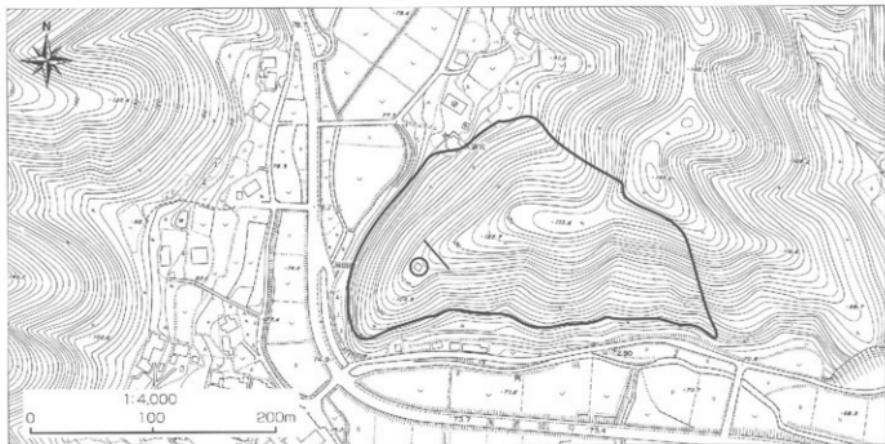
所在地 姫ノ井字愛宕山

現 状 山林

郭 標高約130mの位置に南東より西北に約60m、南北約30mの
詰と二ノ段が残存する。

堀 詰の東側に空堀一条、その南に竪堀一条が残存する。

土 壁 詰の北側に残存する。



西泊城跡

全域地図 D - 5



所在地 西泊字上ノ丸

現 状 山林

郭 標高約90mの位置に南北に約45m、東西に約30mの詰と、二ノ段が残存する。

土 壕 土塁状遺構は残存するが、開墾のため不明確である。

特 徴 大月町では太平洋に面した唯一の城跡である。



春遠城跡

全域地図 D-3



所在地 春遠字ビヤノクシ

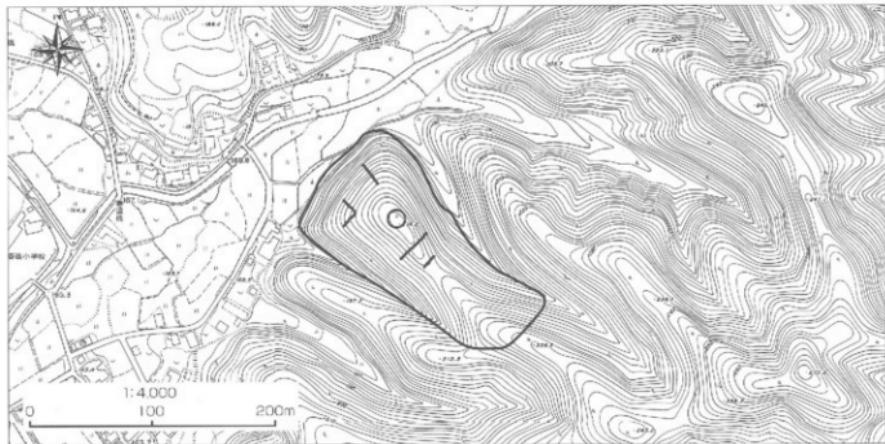
現 状 山林

郭 標高約210mの尾根先端部に東西約40m、南北約80mの詰と二ノ段が残存する。

堀 南側に東西に向かって二条、北側に東西に向かって一条の横堀があり、南北に向かって豎堀二条が残存する。

土 壈 詰の南側より東北へ二ノ段の北側にわたって残存する。

特 徴 春遠地区唯一の城跡である。



古満目砲台跡

全域地図 C - 5



所在地 古満目字古満目向

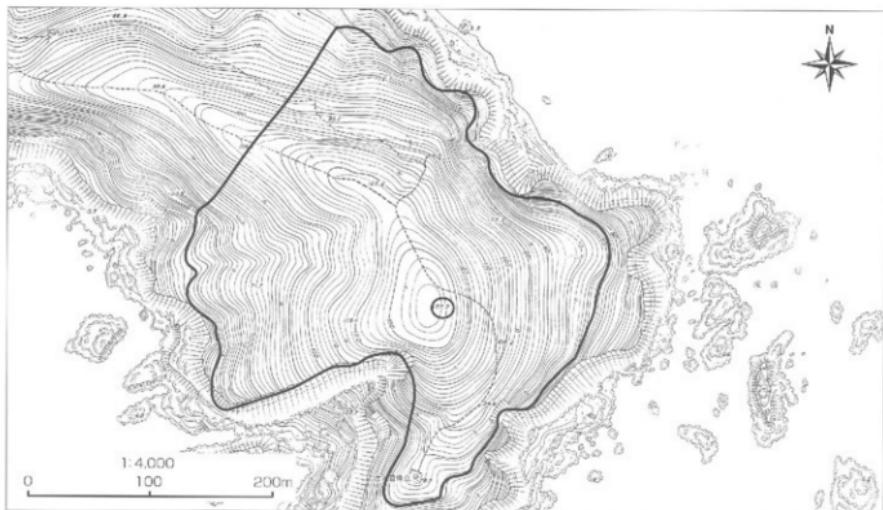
現 状 山林

時 代 江戸時代

特 徴 高さ50cmの石垣で長辺約4m、短辺約2mの広さである。
但し山側に石積はない。

黒船を攻撃するために大砲を設置したもので、この砲台から南上約30mの所に古満目火立場が存在する。

(この砲台より約50m下った所に古満目灯台がある。)



古満目火立場跡

全域地図 C - 5



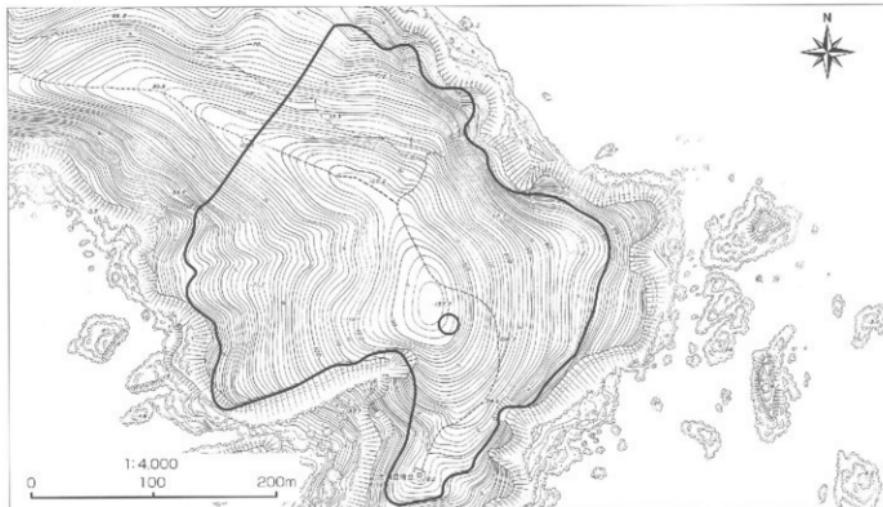
所在地 古満目字古満目向

現 状 山頂近くの斜面

時 代 江戸時代

特 徴 約3m四方

亨保7年(1722年)頃、黒船の発見を高知へ知らせるためにつくりられたもので、この火立場は大堂と西泊の火立場へ知られる中継場所である。火立場から東北約30mの地点に古満目砲台跡が存在する。(西泊の火立場は、文献により現地調査を行ったが確認出来なかった。)



大堂火立場跡

全域地図 A - 6

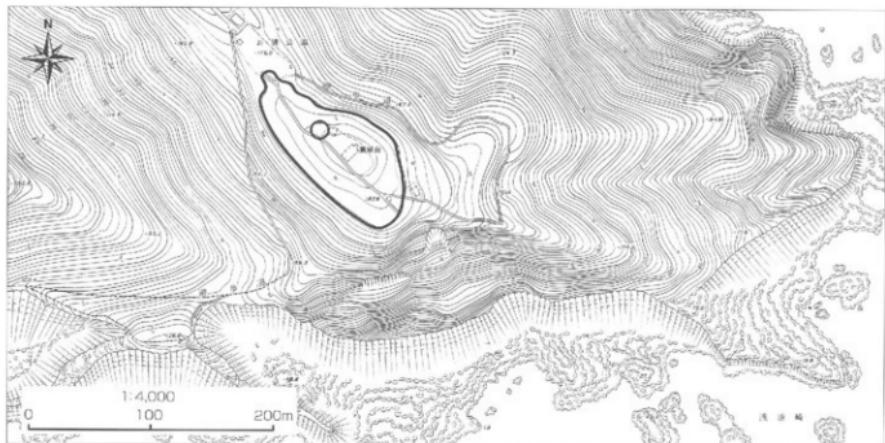


所在地 柏島字大堂山（国有林）

現 状 山林

時 代 江戸時代

特 徴 享保7年(1722年)頃、黒船の発見を高知へ知らせるため、4~5m四方を石垣でつくられていたとみられるが、お猿公園を造る際に石は集められて石積となっている。この火立場は柏島と古満目の火立場へ知らせる中継場所である。



安満地火立場跡

全域地図 A-5



所在地 安満地字勤山

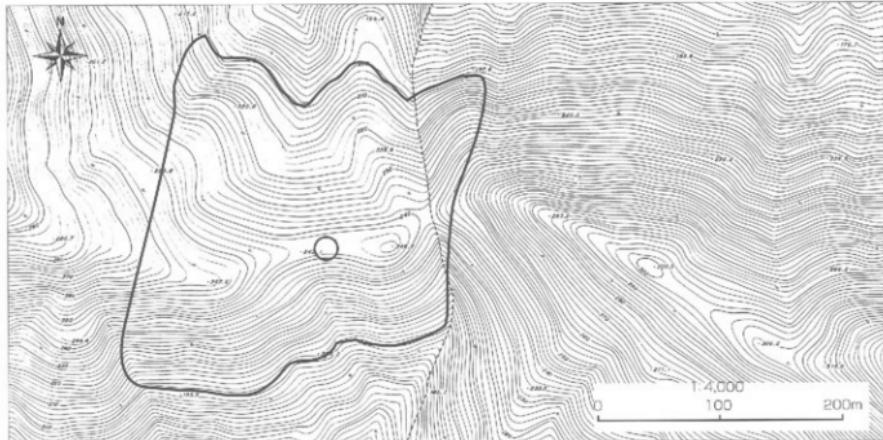
現 状 山林

時 代 江戸時代

遺 構 約3m四方。

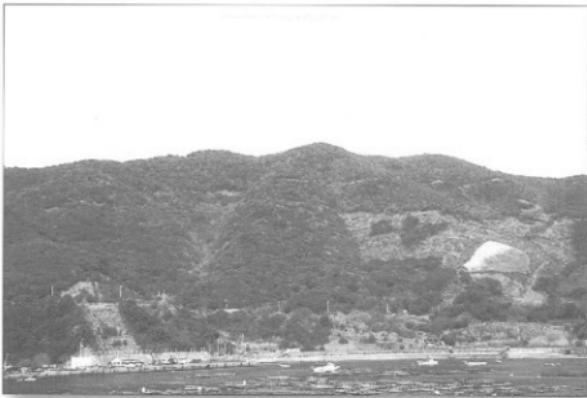
享保7年(1722年)頃、黒船の発見を高知へ知らせるためつくられたもので、この火立場は橘浦と柏島の火立場へ連絡する中継場所である。

(柏島の火立場は、文献により現地調査を行ったが確認出来なかった。)



橘浦火立場跡

全域地図 B-4



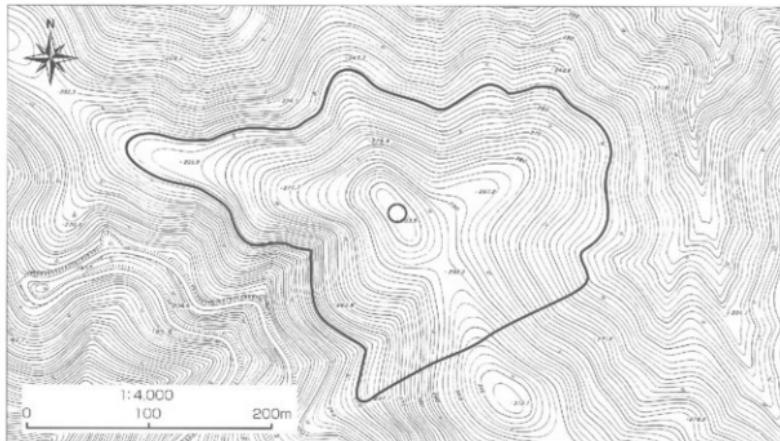
所在地 橘浦字奥森山

現 状 山林

時 代 江戸時代

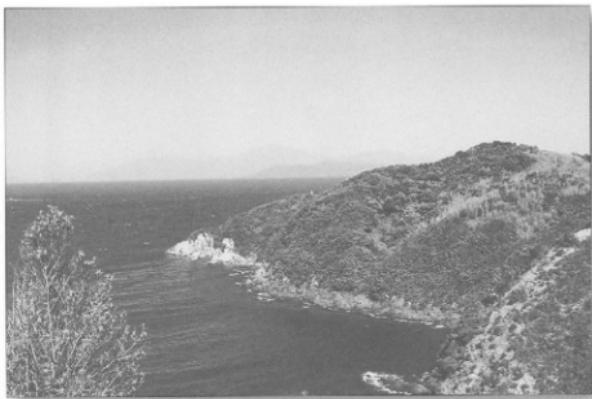
遺 構 約4m四方。

享保7年(1722年)頃、黒船の発見を高知へ知らせるためつくられたもので、この火立場は白崎と安満地の火立場へ連絡する中継場所である。



白崎砲台跡

全域地図 B-2



所在地 芳ノ沢字シタノウラ

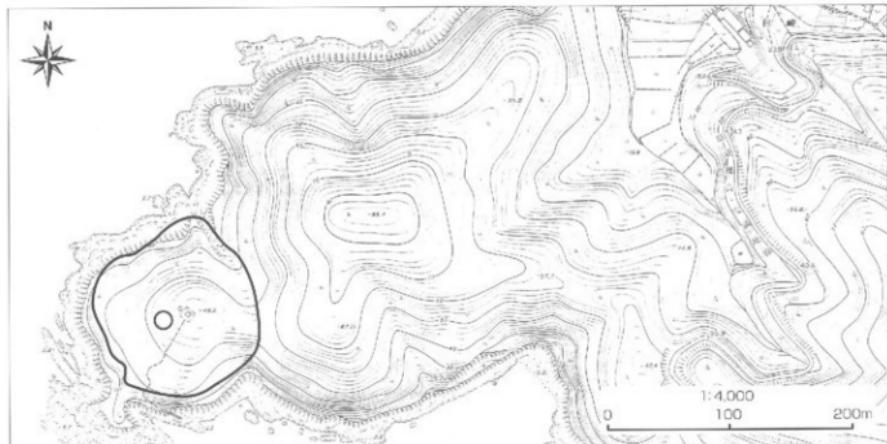
現 状 山林

時 代 江戸時代

特 徴 高さ約50cmの石垣で長辺約4m、短辺約2m、但し山側に石垣はない。

黒船を攻撃するために大砲を設置したもので、この砲台の北東約180mの所に白崎火立場が存在する。

(砲台跡から山上約30mの所に燈台が建っている)



白崎火立場跡

全域地図 B-2



所在地 芳ノ沢字トウミ山

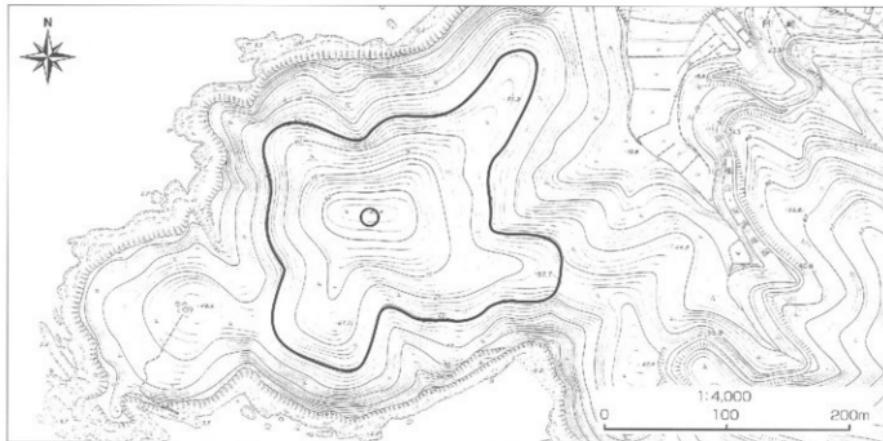
現 状 山林

時 代 江戸時代

特 徴 約3m四方。

享保7年(1722年)頃、黒船の発見を高知へ知らせるためつ
くられたもので、この火立場は宿毛と橋浦の火立場へ連絡
する中継場所である。

火立場の南西約180mの所に白崎の砲台跡が存在する。



大浦砲台跡

全域地図 D - 6

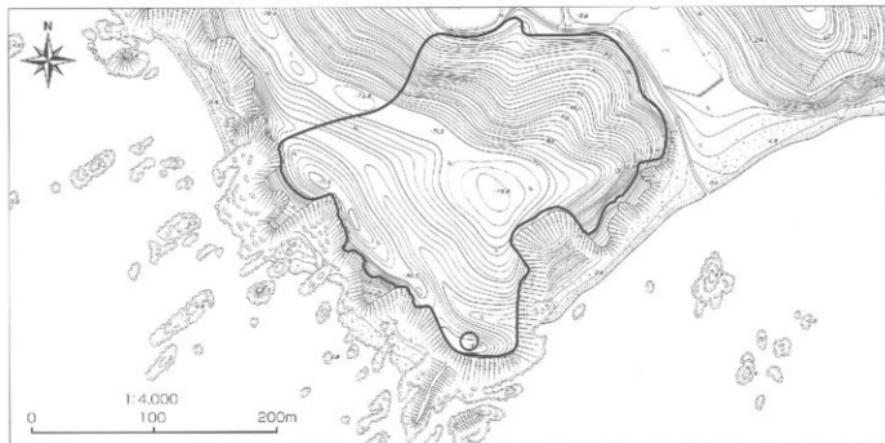


所在地 大浦字上朴ノ川山

現 状 山林

時 代 江戸時代

特 徴 高さ約50cmの石垣で長辺約4m、短辺約2mの広さである。
黒船を攻撃するため大砲を設置したもので、この砲台の北
西約160mの所に大浦火立場が存在する。



大浦火立場跡

全域地図 D - 6



所在地 大浦字朴ノ川山

現 状 山林

時 代 江戸時代

遺 構 約4m四方。

享保7年(1722年)頃、黒船の発見を高知へ知らせるためつくられたもので、この火立場は西泊と土佐清水市大津の火立場へ知らせる中継場所である。

この火立場の南東約160mの地点に大浦砲台跡が存在する。



三浦一族の墓

全域地図 B-5



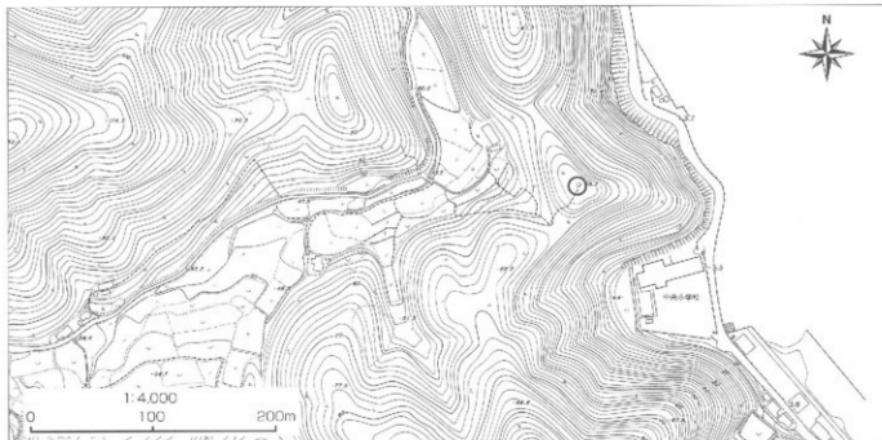
所在地 古満目字八幡森

時代 江戸時代

特徴 古満目から坪の後に至る旧道の峠近くの山上に墓地がある。墓碑は正面に「三浦公一族の墓」、左側に「東方綱組頭中平宇吉、脇見今津晴見」、右側に「昭和十二年十月」と刻まれている。(元の碑は不明)

山内氏入国後沖の島の三浦助左衛門吉久が古満目の代官役に任用され200石を拝領し代々古満目に住んだ。

三浦一族の墓地の下段に三浦氏の家臣であった安満地の谷本庄屋の八代谷本与三郎夫婦の墓があり、墓碑の正面に「谷本与三郎夫婦の墓」、右側に「貞亨五年申四月廿五」とある。



山内隼人・采女父子の墓

全域地図 A - 6



所在地 柏島(大黒山中腹)

規 模 隼人の墓は五輪塔で全高295cmの花崗岩。地輪には「明暦二年正月一日禅昌寺殿博公以心居士願証菩提者也」と刻まれている。采女の墓は五輪塔の火水輪が欠損して全高111cmの花崗岩造りである。

伝 承 宿毛伊賀さんこと安東家とは累代美濃(岐阜県)の七間城主であり、織田信長に抵抗したので誅伐されたが、その内室が山内公と血縁関係であった。そのため山内公入国後、竹中半兵衛に預けられていた藤太郎可氏が迎えられ家老職に取り立てられた後、宿毛で6800石を知行することになった。そして天正13年(1585年)山内姓の称号を許され、山内左衛門可氏と云うようになった。二代目山内左衛門佐定の弟、隼人は祖父江志摩の没後、同格の1000石を拝領して柏島守護職となり、寛永16年(1639年)来島し、17年後の明暦2年(1656年)1月1日50歳で没した。采女は隼人の長男として慶安2年(1649年)柏島に生まれる。明暦3年(1657年)父の跡目相続をする。寛文7年(1667年)故あって自害。享年18歳。

平成5年12月22日 大月町文化財指定



五輪塔地蔵群

全域地図 D - 5



所在地 西泊字上ノ丸

伝 承 この付近には、河内庄屋一族の塔墓をはじめ、多くの墓があつたと云われている。畠開拓の時、無縁の塔墓、五輪塔等を現在地に積み置いたとのことである。平成5年文化財調査会委員によつて整理した。

- 五輪塔一基として組めたもの
高さ 104cm 4基
- 五輪塔一基として組めたもの
高さ 77cm 4基
(この内一基には4面に梵字)
- 五輪塔一基として組めないもの
- 空風輪18個、火輪1個、水輪34個

これから考えると五輪塔は53基以上あつたことになる。一石五輪塔は完全な形のもの8基、一部欠損したもの4基、高さ50cmのもの2基には梵字が刻まれている。舟形石浮彫の石仏は22躯で、内3躯には梵字が刻まれている。



河内庄屋一族の塔墓と墓碑

全域地図 D - 5



所在地 西泊字上ノ丸(桜西小学校裏)

規 模 河内家は代々西泊の庄屋であるが、堂宇の中の五輪塔は現在地の上にあったものを大正2年(1913年)頃、一族の眠る現在地に移したと云われている。この五輪塔は河内善兵衛の妻の墓で、高さは156cm地輪の前後に刻字されている。堂の外すぐ左に高さ130cmの五輪塔一基と二基の塔墓が並んでいる。なお、堂の右側にも一族の墓碑が並んでいる。

平成5年12月22日 大月町文化財指定



大坂城及び名古屋城築城の残り石

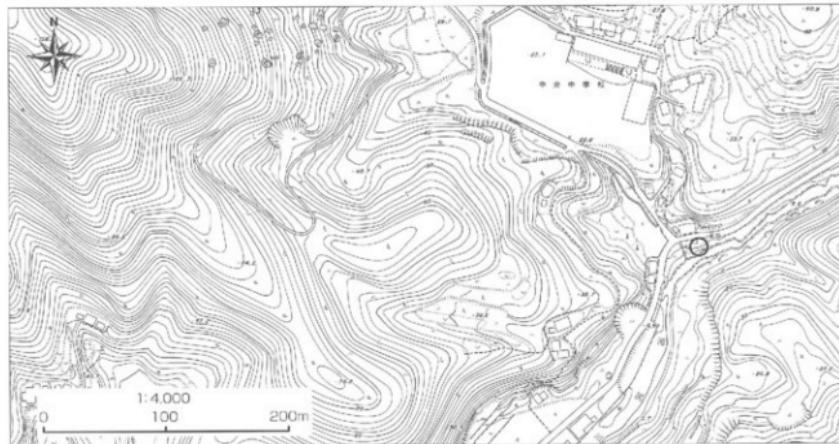
全域地図 C - 4



所在地 頭集 県道沿い(中央中学校下)

特 徴 大坂城(天正11～15年[1583～1587年])、名古屋城(慶長15年[1610年])築城に際し、浦尻から採石して積出したと云われ、その残り石を取り上げて県道二ツ石～柏島線の路側に展示した。

平成5年12月22日 大月町文化財指定



震洋艇格納壕跡

全域地図 B-2



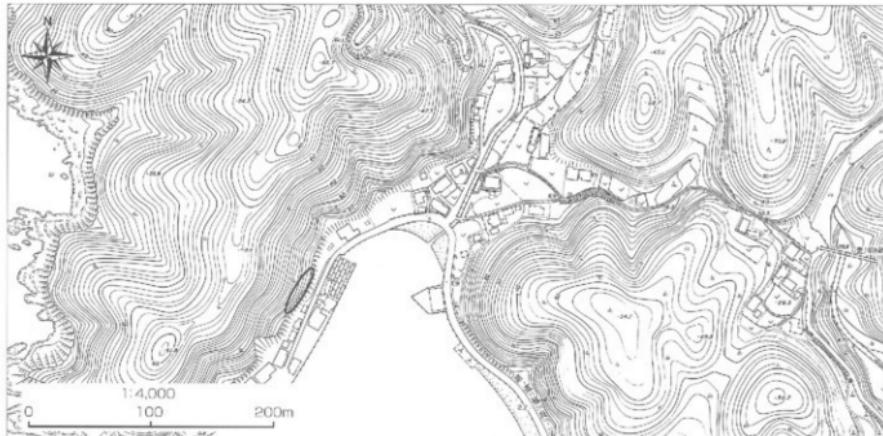
所在地 泊浦字古泊

現 状 この壕は第二次世界大戦当時、本土決戦にそなえて海軍により震洋艇や回天を格納するために造られたものである。泊浦には首中尉を隊長とする142震洋隊（24隻配備予定が3隻配備）が配置されたが、昭和20年8月15日の終戦により出撃することなく役割を終えた。

戦後50年以上を経過し、当時の記憶は薄れつつある歴史の生き証人とも云える戦争遺跡である。

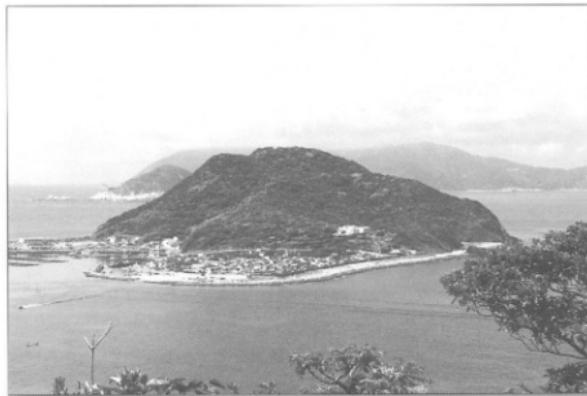
泊浦の格納壕は18ヶ所あったようであるが現在は3ヶ所確認されている。

なお、柏島には昭和63年に震洋基地碑が建立されている。



柏島石堤

全域地図 A-6



所在地 柏島

時代 江戸時代

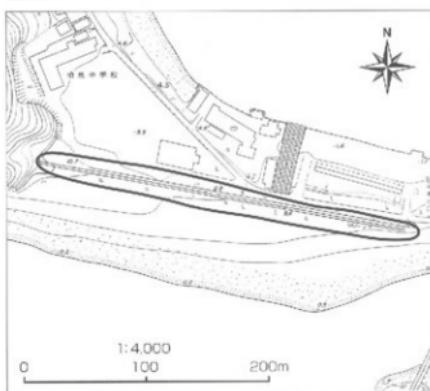
特徴 土佐藩の家老野中兼山により慶安から寛文(1648~1672年)の頃、集落を風波から護るために島の北、東、南の三面(馬蹄形)に長さ六町二十間(654m)、高さ一間四尺、幅一間余の石堤を築き、波止は長さ二十間、満潮時の水面より高さ三尺(約1m)である。更に兼山は島の周辺が潮流の加減により好漁場になると想い、島の南岸から対岸(本土)との間に長さ二町三十間(270m)高さ一間半、幅二間、腰巻幅二間、堤敷十八間、捨石幅左右五十間(90m)の大突堤を築いた。折戸に白砂を敷き浅瀬とし漁場とともに、港を怒濤から守る築堤は前後合わせて14年の歳月を要したと云われる。現在はこの石堤の上に防潮堤を築いたもので石堤は一部分が見えるのみであるが、堤外の大石は築堤当時のものと思われる。江戸時代初期の土木構造物として歴史的、文化的価値が高い。

昭和28年1月29日 高知県史跡指定

*1尺 30.3cm

1間 1.8m

1町 108.0mの計算で算出



安満地稻荷神社本殿

全域地図 B - 4



所在地 安満地字宮添

建築年 元禄5年10月吉日(1692年)
(棟札による)

特徴 本殿の外観は六本の柱を立て、柱上に斗拱が組まれ深い軒を支えている。前流れの銅板葺屋根が曲線形に長く延びる押庇となっている。組高欄つきの回縁をめぐらし、桁行3m、梁間3.4mの切妻流造りで古調を帶び、回縁奥の彫刻、桁端を隠す脇懸魚、象木鼻もよく整った建築である。



円福寺跡

全域地図 D-5



所在地 姫ノ井字延福寺

規 模 姫ノ井城跡の山麓部北側に存在し、現在畠になっているので寺の遺構は不明であるが、範囲は東西約20m、南北約50mである。この寺跡の上には墓地があって五輪塔、卵塔（享保13年、天明6年）石の丸彌座像地蔵（台座を含む高さ123cm）等、自然石の墓、舟形浮彫地蔵が多数残存する。

文 献 江戸時代に書かれた遍路関係文献に「月山より姫ノ井邑に下り宗徒禪宗円福寺に宿す。旧筑前の人也。寺新築4畝半4間、内一つは仏間なり下12畝なり茅屋葺瓦庇佳なり」の記述がある。

